

2017年春の叙勲（旭日小綬章）の受章が決まった竹内誠二氏は88年11月から竹内ハガネ商行の社長を務める。同社は戦前の30年8月に東京・鈴ヶ森において、祖父竹内熊太郎氏が創業した。不況の中、サイドカー付自転車一つでヤスリ、ペンチなど切削工具類などの配達から始めた。養子として迎えられた父である竹内三郎氏が二代目として家業を継ぎ、「工具鋼一筋」を貫いた。三郎氏は89年に「勲五等双光旭日章」を受章しており、今回の誠二氏と父子二代の榮譽となった。

## 旭日小綬章を受章 竹内誠二氏（元全特協会長）

ズが聞こえてくると、会場は皆笑顔になる。竹内氏が会長を務めていた08年度からの3期6年間、恒例となっていた一言である。さらに言えば、会長就任前に東京支部長を5期10年務めていた時代から東京地区では有名なフリースであり、ある時、中締めでふと発した言葉が大いに受けて、「名文句」となったらしい。「少しでも会員を増やし、全特協の輪を日本全国に広め、親睦を深めたい」という思いが凝縮している言葉だ。周囲からは「人柄の誠ちゃん」と親しまれ、責任感がつとに強い。それは41歳の若さで社業を父三郎氏から引き継ぎ、業界団体である全日本特殊鋼販売組合連合会（現全特協）の

## 「人柄の誠ちゃん」父子二代の榮譽

理事を87年から務めていることに起因する。「実績は枚挙にいとまがない」

全特協会長就任間もなく、08年リーマンショックが発生するが、会員企業向けの事業継続のための金融対策勉強会を東名阪の3支部で実施。事業継続の危機を回避する方策が得られたと会員企業の経営者から高い評価を得た。

また同年、公益法人会館関連3法案が成立するや、一般社団法人化を目指し奔走。内部留保が凍結されることへの抵抗意見、移行に対するメリット・デメリット論の再燃から起る協会離脱論など、さまざまな異論反論を収め、理解を求め実現させた。人柄誠ちゃん

んの本領発揮である。第4次中期計画では、主要事業である「特殊鋼販売技術検定研修講座」において、講座内容の平準化とビジュアル化を推し進め、研修指導要領書を全面改良。1360項に及ぶ集大成として、販売技術検定試験の合格率は会長在任中、23.6%増と大きく目標を超えた。調査研究事業でも10年分を取りまとめたデータとして会員にフットバックを行い、業界の企業経営に貢献した。

毎年4月1日「はがねの日」には、記念切手の売上金額の一部を国際NGOの「チャイルドスポンサーシップ」に参加し寄付。東日本大震災でも義援金2000万円を日本赤十字社に寄付するなど、社会貢献活動も精力的に行った。

「異業種交流も」地域の業界団体の発展にも尽くしている。03年度から理事長を務める「東京ハガネ商協同組合」は、海外からの技能実習生を受け入れ、会員の資金面での保証、技術面の相互協力、情報共有化など、中小零細企業の旗振り役として、竹内氏の存在は欠かさないものとなっている。また「協同組合東洋コア」では異業種20社超の会員数を誇り、代表理事として09年度から運営に当たる。貴重な異業種交流の場であり、同組合の発展に貢献している。

竹内氏は47年4月9日生まれ、70歳。東京都出身。